

公開授業の研究協議において出た意見

- ・パソコンを利用した帳簿作成は、生徒の興味関心を持たせるものとしてよかった。
- ・移動平均法で行を用意し色を分けていたのは、分かりやすかったが、「帳簿の作成が出来る」という本時の目標に対しては、何行で記入するかが分からない方が、考えるきっかけになったのではないかな。
- ・授業冒頭の復習は、生徒が理解できているのかを確認・把握できるものにしなさいといけない。
- ・理解している生徒が多かったので、発言がもっと引き出せると活動に動きが出てくるのではないかな。
- ・個人でずっと行っていたので、グループでさせて、誰かが入力するなどの手法もある。個々人でするところと、グループでやるところを分ける。
- ・アウトプットが大事である。いかにして生徒にアウトプットさせるか。
- ・深い学びにつながるような、授業の本質につながるような「問い」を考える必要。毎授業、授業中に何個の「問い」をだせるか。生徒の声を引き出し、生徒に発言をさせる機会を多く作る。
- ・教科書を使っていない。教科書など資料を使いながら解決させる。
- ・パソコン入力の後にプリントに書かせたが、電卓も使用せず、ただ画面をプリントに書き写しているだけであった。

その後考えたこと

- ・授業のルールを明確につくる。
- ・「発問力」が大事である。「～を見て気づくことは何ですか?」、移動平均法の単価を尋ねる発問「1個いくらになりますか?」など、ゴールイメージを持った上で、意図をはっきりさせた、答えやすく達成感のある発問をたくさん準備しておく。発問に対する返答も予想しておき、生徒が答えまで自力でたどり着けるようなヒントも段階的に準備しておく。
- ・パソコンを使用した、商品有高帳の作成は、間違えても入力し直せばいいためプリントで行った時よりも、取りかかりの動きは軽かったが、プリントにアウトプットさせる際は、入力が終わった生徒からとせずに、画面を閉じさせるなどして、一斉に改めて頭で考えてプリントに解かせないといけない。

「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行う上での留意点

- ・授業時の教師対生徒の対話が自然に出来るように、普段の学校生活での生徒との対話を増やす。
- ・教師の意識改革の必要。生徒に主体的に組ませながら、教師は教えるのではなく、適時援助する。
- ・短くてもいいから生徒自身の言葉で発表させる。生徒が答えるまでは、答えを言わない。
- ・テストや評価方法をどうするのか。実践事例を情報収集する必要がある。
- ・グループ・ペアの作り方、グループ活動のルール。

「教科の特質に応じた見方・考え方」を働かせた授業実践について考えたこと

- ・簿記を得意科目、または好意的に感じている生徒と、そうでない生徒をペアにする。自分の考え方・解き方に自信が持たなくて、グループでの話し合いに積極的に入れない生徒でも、ペアなら聞きやすく対話しやすい。
- ・簿記の帳簿作成と、情報処理の Excel 関数の活用を融合させ横断型の授業展開の可能性。要改善。